

令和3年度 佐賀・長崎 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
木育キャンプ ～森林を学び、木から創り、木と遊ぶ～

日吉自然の家 令和3年10月16日（土）～17日（日）

西彼青年の家 令和3年11月6日（土）～7日（日）

黒髪少年自然の家 令和4年1月23日（日）※本所職員不参加

北山少年自然の家 中止

【担当：小野 栄策】



1. 事業の背景

近年、異常ともいえる気象が常態化しつつあり、様々な災害を引き起こし、人々の生活に甚大な被害をもたらしています。異常気象と環境問題は切り離すことができません。環境保全に寄与する態度を育成する環境教育は喫緊の課題といえ、その中でも国土の3/4を占める森林の役割を理解すること（木育）はSDGsを推進する上でもとても重要です。

諫早青少年自然の家は「森と溪流の諫早」をキャッチフレーズとし、沢登りやウォークラリーなどをプログラム化し、それを多くの利用団体が活用しています。しかしながら、研修支援向けに「森」や「木材」について学ぶプログラムは開発されていません。本所周辺の森や木材を活用したプログラムを開発することは、本所の特色を一層高めることにつながります。

また、当所は集団宿泊活動での活動を教育課程に位置づけることができる教科横断的なプログラムの開発が求められています。「木育」は、既に様々な学校において、理科や社会、あるいは総合的な学習の時間での実践例が数多くあります。学校行事の精選、授業時数の確保が必須な学校現場の現状を鑑みて、宿泊体験活動に木育プログラムをミックスしていけば、学校団体のニーズに応えられると考えます。

さらに、青少年等の森林体験活動の機会の提供、指導者の育成、国民生活に必要な物資としての木の良さやその利用の意義を学ぶ活動である「木育」を推進し、プログラムを開発することは、国立青少年教育施設に求められる役割であり、事業の成果（プログラム、運営手法等）を公立施設や学校等に普及する必要があります。

昨年度まで、当事業は、公立青少年施設（日吉、西彼、黒髪）との共催で実施し、参加者募集、当所への引率、公立施設職員の事業運営参画等を行う中で、直接ノウハウ等を提供してきました。本年度は、これまでの学びを生かして、それぞれの公立施設のフィールドで木育キャンプを行い、当所職員が運営補助に当たることで、公立施設の教育力向上を図りました。

2. 事業の趣旨

次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とする。

3. 目標

- (1) 自然林や植林された森の観察をすることにより、自然や環境について興味を深める。
- (2) 木材の加工現場を見学し、生活空間で木と人との密接な関りについて考え興味を深める。
- (3) 木材を使用したクラフト、樹木を利用した遊具体験を通じ、更に親しみをもってもらう。
- (4) 偶然性を伴う異年齢集団活動の中で、コミュニケーション力を高め良好な関係を築く。

4. 対象

小学校4年生～中学校1年生 30名程度

5. 事業の実施

(1) 参加者

会場	男女別・学年別内訳
日吉自然の家	参加者 27名 (男子 17名、女子 10名) 小学校4年生 16名 (男子 10名、女子 6名) 小学校5年生 7名 (男子 4名、女子 3名) 小学校6年生 1名 (男子 0名、女子 1名) 中学校1年生 3名 (男子 3名、女子 0名)
西彼青年の家	参加者 17名 (男子 13名、女子 4名) 小学校4年生 5名 (男子 4名、女子 1名) 小学校5年生 7名 (男子 6名、女子 1名) 小学校6年生 3名 (男子 2名、女子 1名) 中学校1年生 2名 (男子 1名、女子 1名)
黒髪少年自然の家	参加者 72名 ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い本所職員は不参加
北山少年自然の家	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

(2) 日程

日吉自然の家

1日目	2日目
内容	内容
11:00 出会いの会	9:00 きこり体験 (まき割)
11:20 仲良くなろう	10:00 火おこし体験
13:30 市民の森 作業の見学	11:00 たき火で調理 簡単クッキング
15:00 木工館見学	12:30 森の散策
16:30 入所オリエンテーション	13:45 アンケート記入
18:30 木製時計作り	14:00 終わりの会
20:30 振り返り	
21:00 入浴 就寝	

西彼青年の家

1日目	2日目
内容	内容
10:30 出会いの集い オリエンテーション	9:00 木工クラフト
10:50 アイスブレイク	11:00 回廊体験
11:20 「森林の学び」	13:00 アンケート記入 終わりの会
13:00 森林の学び① 植林地	
14:00 森林の学び② 森林と林業	
15:00 森林の学び③ 製材所	
16:00 森林の学び④ タイニーハウス	
17:30 講師へのお礼	

(3) 活動の様子（西彼青年の家「木育キャンプ」）

【アイスブレイク】



【森林の学び】



【森林見学】



【アイスブレイク】

初めて出会った子供たち同士が、お互いを知り、緊張した雰囲気を和ませるために、班ごとに分かれて自己紹介を行ったり、じゃんけんゲームを行ったりしました。その後、活動班ごとに班長など役割分担を決めたことにより自主的・積極的な行動が目立つようになりました。この活動をきっかけに休憩時間にボール遊びをしたり、楽しく談笑したりする姿が見られるようになり、良好な関係を築く一助となりました

【森林の学び】

森林環境コーディネーターの方から、「木の特徴」「森林の育て方」「森の役割」「長崎県の林業の現状」について説明してもらいました。実際に木の香りを嗅ぐこと子供たちの興味が高まり、林業について多くの知識を得られたことは、子供たちにとって有意義なものとなりました。専門家から今回の森林見学の説明を聞いたことで、午後からの森林見学の視点を持つことができました。

【森林見学】

森林見学①

早生植林材センダンの森づくりの様子を見学しました。センダンは、成長が早く下刈りの作業が省け、ケヤキに似た材質なので、今後の利用が期待される木であること等が説明されました。

森林見学②

次に、ヒノキ林で行われている木の伐採の様子を見学しました。林業課技師の方から森の働きについて説明を聞き、林業組合の方から実際に木を切り倒す様子を見せてもらいました。子供たちが特に関心を持っていたのが、高性能林業機械による木の伐採の様子です。その後、行われたのこぎりによる丸太切り体験の苦労と比較して、その効率と仕事のスピードに驚いていました。

森林見学③

更に、製材所を訪ねました。切り倒された木が、製材機にかけられ、皮を剥がしたり、使用目的に応じて木材を切断したりする様子を見学しました。一瞬かつ正確にでき上がる機械のすごさに驚いていました。お土産にいただいたまな板は記念として大切に使用されることでしょう。

森林見学④

最後に、地元西海市で伐採されたヒノキを使用したタイニーハウスを見学しました。地元住民の会議や憩いの場、留学生の宿泊場所等に提供されるこの小さな家は、すべて木材で建てられています。「ヒノキの良い匂いがする」「ボルダリングの壁がある」「不眠や疲れが解消されそう」と木の魅力を満喫していました。

【木エクラフト】



【木エクラフト】

製材された木の活用例として、杉の板を焼き、磨き上げた後に、絵や文字を描く、部屋のプレート作りを行いました。自然物で製作する良さや楽しさを感じながら、2日間一緒に過ごした仲間とともに作った作品は、一生の記念となるでしょう。でき上がった作品や頂いたお土産を自慢げに保護者に紹介する姿が見られました。

【回廊体験】



【回廊体験】

西彼青年の家の体験活動として、長い年月をかけて作られてきた回廊で遊ばせてもらいました。木と木を横断する形で森全体に広がった回廊の規模にまず驚かされます。子供たちが歩いても壊れないようにしっかりと木で組み立てていました。遊び心満載の回廊作りも、一度体験させてみたいと思いました。

6. 評価

(1) アンケート結果（西彼青年の家「木育キャンプ」）

活動内容	とてもよかった	よかった	あまりよくない	よくない
森林の学び	70%	30%	0%	0%
セダンの森	82%	18%	0%	0%
ヒノキ林	76%	18%	6%	0%
製材所	88%	12%	0%	0%
タイニーハウス	88%	12%	0%	0%
焼き板	82%	18%	0%	0%
回廊体験	88%	12%	0%	0%

(2) 参加者の声

- ・森林の学び(スライド)で講師の人がわかりやすく教えてくれたことが良かったです。天然林と人工林のこと、木の成長の仕方、葉の形で木の種類を見分けられることなどが分かってうれしかったです。
- ・製材所を見学して、ヒノキとスギの違いや、木から木材になるまでの作業を見られて良かったです。
- ・タイニーハウス見学で、床にはあまり「木目」が無いところが使用されていること、ヒノキはとても良い働きをしていることがわかりました。
- ・僕は、林業の様子を見て「楽しそう」と思いました。林業のすばらしさをみんなにも広めて、木を大切にしようと思う人を増やしていき、美しい自然をいつまでも保ち、後世に伝えていきたいと思いました。

7. 成果と課題

(1) 成果

- ・当所がこれまで取り組んできた「木育キャンプ」の学びを生かし、佐賀県、長崎県の

公立青少年教育施設のフィールドで実際に行えたことは大きな成果です。

- ・それぞれの事業内容の交流、職員間の情報交換を積極的に行えました。実物に触れて木の性質を確認すること、森林伐採の様子や製材作業の様子を直に見学すること、「森林の学び」における講師の活用など、それぞれの施設が行ったプログラム内容を、体験することができました。
- ・公立青少年教育施設を拠点に木育事業支援団体のネットワーク化を進めることができました。

(2) 課題

- ・「木育って何」、「どんなことを学べるのか」「環境問題を考える必要性」などが具体的に参加者に伝わるような広報をしていく必要があります。
- ・「木育キャンプ」の取組を他の公立青少年教育施設に拡げることができませんでした。引き続き公立施設や学校等に普及する必要があります。

(3) 今後の展望

日吉自然の家が行った一連の活動プログラム（薪割り体験、火付け体験、火起こし体験、野外炊事）や西彼青年の家が行っている回廊体験は、学校団体からのニーズも高く、利用促進と木育の普及に大きく貢献しています。本所でもこれらの取組を参考に、子供たちが森林に興味をいだききっかけとなる活動プログラムを積極的に考えていきたいと思えます。まずは、他の施設の良いものを模倣し、その後に本所の特質に合わせたオリジナルの体験プログラム（例えば、木登り体験、昆虫の森づくりなど）を開発していきたいです。

日吉自然の家のキャンプで訪れた、市民の森木工館の環境整備に感銘を受けました。様々な木の展示は五感で木を体感することができます。クラフトコーナーは材料や道具、木の作品が上手に配置してあり、創作意欲が高まるしかけを随所に見ることができました。こういった空間作りを参考にして、本所にも森林を学ぶ体験スペースを設置したいと思えます。

西彼青年の家の企画・運営の手法がとても参考になりました。木育キャンプを運営するためには専門家のアドバイスが必要不可欠です。森林見学を計画するときに森林環境コーディネーターの役割がとても重要でした。分かりやすい説明、その分野に精通した人脈、「ひと・もの・こと」を見事に活用して、子供たちの思考がつながるようにプログラムを組み立てていました。外部連携先との関係をより強固にするためにも、施設の垣根を超えたプロジェクトチームを組織することが必要です。社会教育施設の集客力、企業や行政の財力・広報力、大学や行政の専門性などを生かして、企画・運営を行いたいと考えています。当面は、当所が関係をつないできた緑化推進協会や県央振興局、県央木材製材所、県民の森インタープリターとの連携を深めるとともに、新たな連携先の開拓にも着手する予定です。

最後に、現在の林業が抱える喫緊の課題「担い手不足」にも一石投じたいと考えています。木を木材として育てるためには長い年月がかかり、間伐や枝打ちには大変な労力がかかります。海外から輸入される低コストの木材に圧倒され、日本の木材の需要は低下しています。それと同時に、環境保全には関心を高めていかなければなりません。そのためには、子供から大人まで幅広い木育の普及が必要と考えています。現在、本所では、主に小学校高学年の子供たちを対象に事業を進めてきました。それと同時進行で、今後は、よりキャリアモデルを身近に感じられる、高校生・大学生・ボランティアなどに広めていければと考えています。